

所属 国際関係学科	職名 教授（2019 年度より）	氏名 大石高志	大学院における研究指導担当資格の有無 （有）		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			授業で進行する各テーマに関連する可能な限り具体的な資料（図版や映像資料など）を提示・共有して、リアリティに富む理解を促した。		
2 作成した教科書、教材、参考書			授業内容に沿ったプリント資料を自身で作成・配布している。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018 年 11 月 14 日 2018 年 11 月 28 日 2018 年 10 月 12 日 2019 年 1 月 29 日 2018 年 6 月 5 日	外務省外交講座（国際関係学科）の開催に伴う様々な設定・調整（教務入試班とともに担当）と、当日での司会。当日の講座は、堀繭子氏（外務省総合政策局国際安全・治安対策協力室）「国際社会におけるテロの現状を踏まえた我が国の取組」。 本学客員教授の杉下智彦教授（東京女子医科大学）の講演会・セミナー「地球が職場：グローバルなキャリアを語ろう！：世界で活躍する企業や専門家から体験を聞く」の設定・開催と当日の司会。また、在校生や卒業生の活動もプログラムに組み込んで、キャリア形成の具体的な例を提示するように努めた。なお、本講演会は、国際協力機構 JICA 関西の後援を賜った。 本学客員研究員の佐藤宏氏（元アジア経済研究所）の研究者招聘制度による招聘と、講演会「日本とインドー戦後 70 年の軌跡」の開催。 神戸市外国語大学研究会の研究報告会制度に基づいての講演会の開催。「フィリピンにおける社会的包摂：インクルーシブな発展をめざして」。講師：采女由衣（本学国際関係学科卒業生；元 JICA 青年海外協力隊員）。司会も務めた。また、在校生の山本愛生さんにもフィリピンでの自身の NGO 活動について、報告していただいた。 自身の卒業論文指導ゼミの卒業生を招いて、ゼミに参加・報告してもらい、卒業後の NGO での活動業務について報告してもらうなどして、在学生への知的還元を図った。当日の被招聘者は延岡由規氏（テラ・ルネッサンス）。		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・共 著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数

共著書					
『南アジアの人口・資源・環境：生態環境要因を重視した南アジアの長期発展経路解明のための中間報告』	共編著	2019 年 3 月	京都大学 人間文化研究機構「南アジア地域研究」京都大学中心拠点・研究グループ 1	藤田幸一・大石高志・小茄子川編著	総ページ数：108。 大石単独での執筆は第 5 章：73-91 ページ。
論文					
「インド人移民・商人のネットワーク：環インド世界における生存確保と経済成長の牽引」	単	2019 年 3 月	『世界歴史大系 南アジア史 4 近現代』 山川出版社	長崎暢子編	444-456 ページ
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
社会経済史学会 第 87 回全国大会 (大阪大学)での個別研究報告。2018 年 5 月 26 日		「近代日本のマッチ製造業とアジア市場との接続：兵庫県中西部の中小工場群に関する社会経済史的分析」(単)			
研究会「プランテーションと生存：近代の移民労働者における食糧確保と土地問題」の開催と個別研究報告。 場所：苔谷公園コミュニティセンター(神戸市舞子)。日時：2018 年 7 月 28 日。		「プランテーションと生存：インド史からグローバル・ヒストリーへの架橋」(単)			
「南アジア地域研究」KINDAS 研究グループ 1『KINDAS 研究グループ 1 研究報告集』第 2 回研究会での報告。 場所：京都大学東南アジア地域研究研究所。日時：2018 年 9 月 23 日。		「植民地フロンティア」としてのセイロンとインド南端」(「近現代インドにおける市場経済化と資源・環境：開放性と多様性の再編」の補填)(単)			

<p>「南アジア地域研究」KINDAS 研究グループ 1『KINDAS 研究グループ 1 研究報告集』第 1 回研究会での報告。 場所：京都大学東南アジア地域研究研究所。日時：2018 年 7 月 14 日。</p>	<p>「近現代インドにおける市場経済化と資源・環境：開放性と多様性の再編」（単）</p>
<p>脇村孝平先生 退官記念懇親研究会の主催と個別研究報告。場所：京都大学人文科学研究所。日時：2018 年 12 月 22 日。</p>	<p>「環インド洋交易史と周辺地域史との接続：近代インドでの装身品市場を焦点にして」（単）</p>